

下北の周り方人

下北半島フィールドマップ



フィールドマップ	1 ~ 28
下北交通バス 時刻表	29 ~ 32
JRバス 時刻表	33
JR東日本 大湊線 時刻表	34
タクシー・レンタカー情報 尻屋観光シャトル便時刻表	
フェリー・高速旅客船・ 仏ヶ浦観光船 時刻表	36

宇曽利山湖

恐山

下北地域県民局地域整備部

4 大間地区
P17,18



5 下風呂地区
P19,20



2 佐井地区
P11,12



3 仏ヶ浦地区
P13-16
仏ヶ浦
がんかけ公園
福浦
牛滝



6 薬研地区
P21,22



8 川内地区
P25,26
川内川溪谷遊歩道
かわうちまりんびーち



9 脇野沢地区
P27,28



下北の周り方

下北半島フィールドマップ

さわやかな風、雄大な景色、

歴史や風土に思いをはせながら、素敵な下北半島を歩きましょう。

日本海は太平洋より約45cm水位が高いので、津軽海峡は常に早い海流が流れています。海峡に面した北通り地域からは間近に北海道を望むことができます。

一方、陸奥湾に面したむつ市川内町、脇野沢は静かな天国の海岸線と言っても過言では無い穏やかな海越しに、八甲田連峰や岩木山を見ることができます。

仏ヶ浦を擁する佐井村からは、津軽半島が望めます。特に海峡に沈む夕日は素敵です。

東通村からは雄大で荒々しい太平洋と水平線が望めます。

このように、下北半島はその地形により、地域毎に様々な景色を望むことができる我が国でも希有な地域です。

海岸部から山間部に入れば、恐山や宇曽利山湖、菓研溪流、川内川渓谷、かわうち湖など四季折々に変化する自然の妙を体験することができます。一方、市街地を流れる田名部川、新田名部川沿いの遊歩道からは、山頂に自衛隊リーダー基地を冠する釜臥山を見ることができ、大湊では自衛隊艦船を間近に見ることができます。

下北半島は、素晴らしい景観や風土を有しています。
この下北半島フィールドマップを片手にぜひ下北半島を歩いてみましょう。



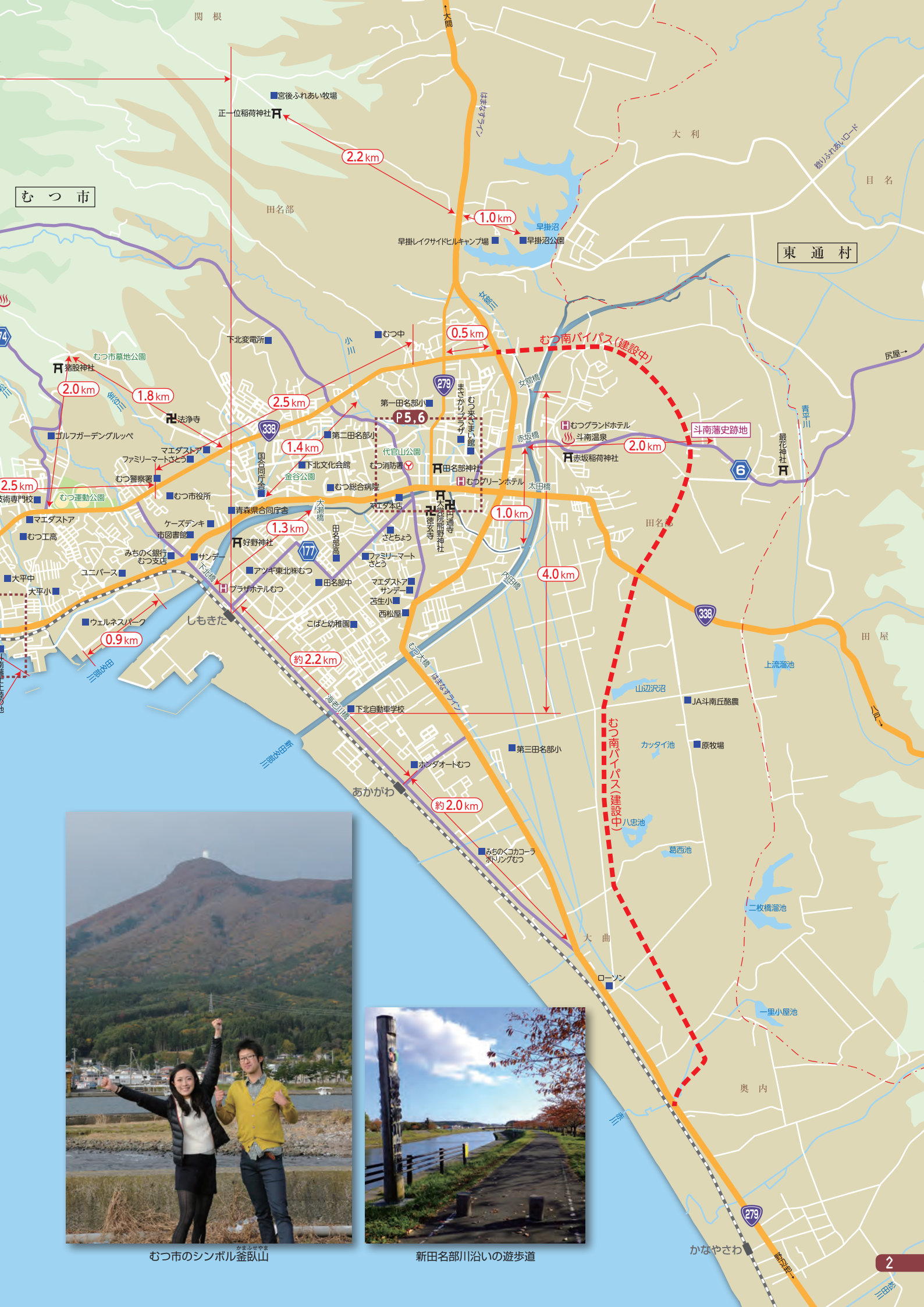


むつ地区



むつ市内には人気のウォーキングコースがたくさんあります。

斗南藩土上陸の地、史跡地、藩庁があった円通寺、徳玄寺など旧会津藩に関わる歴史や、大湊駅から艦船が間近に見える宇田八幡宮まで続く海沿いの道、スキー場からの抜群の眺め、釜臥山展望台から半島の形を一望できる絶景、田名部川沿いの遊歩道、由緒ある寺社など、むつ市の魅力を歩いてみましょう。

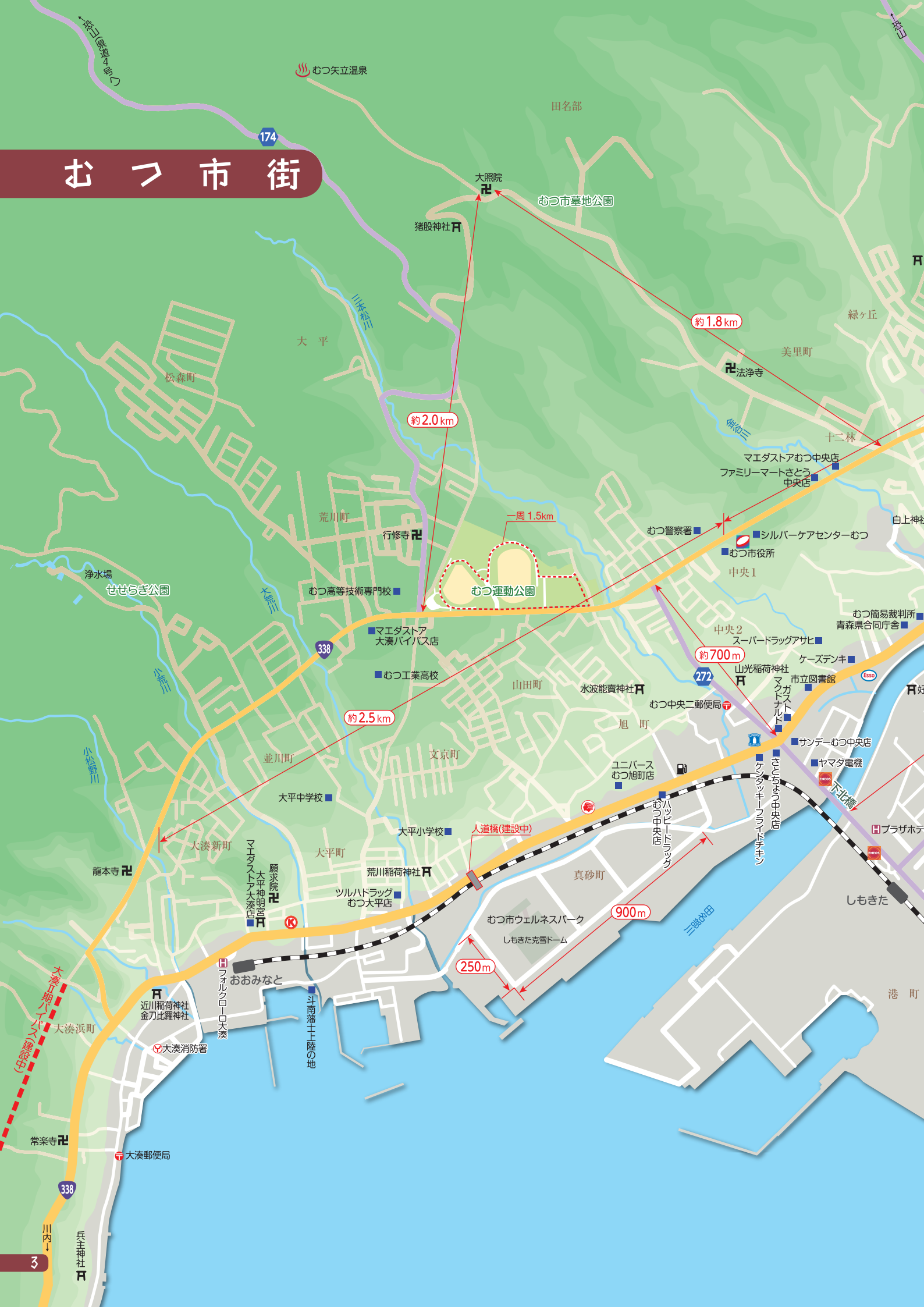


むつ市のシンボル釜臥山



新田名部川沿いの遊歩道

むつ市街





① 田名部神社



勧請の年代はつまびらかでないが、康永四年(1345)の銘がはいった鯉口(神社・仏閣の堂前につるした布の綱を引いて打ち鳴らす金属製の具)が残されていたと伝えられている。明治6年、田名部館跡にあった八幡宮に合祀されたが、いくらか経たずに現在地に復し、明治9年に田名部神社と名を改めた。

8月18～20日に行われる田名部祭りは下北一の祭り。20日の神輿渡御行列には、横迎町の稲荷山、小川町(こがわまち)の狸々山(しょうじょうやま)、柳町の大黒山、本町の蛭子山、新町の香爐峯(こうろほう)と、五つの町内の山車が続き、深夜11時過ぎの五社分かれて終了する。

② 常念寺



浄土宗、山号は不退山。慶長元年(1596)の草創といわれ、磐城の専称寺(福島県いわき市)八世・良港の法子・龍山の開山と伝わる。龍山は良翁と号し、この人が八戸の櫛引から移したともいわれている。延宝3年(1675)、田名部の大火で焼失し、延宝6年に四世良法月西が入山して、貞享3年(1686)になって再建が成就した。寛永9年(1632)、南部28代重直が田名部巡視のとき御板屋にあてられた。また、安永9年(1780)には、恐山支配をめぐって円通寺と争った蓮花寺を預かっている。

本尊の阿彌陀如来座像は、国の重要文化財指定を受けている。ほかに、円空の作という観世音菩薩像がある。

③ 大覚院熊野神社



大覚院の祖先是肥前出身の大宝院真如坊で、大永4年(1524)来村し、釜臥山嶽大明神を管掌することになった。

観音像は、現在の大覚院境内の川沿いに鎮座した薬師堂に安置されていたらしいが、この馬頭観音は伏せに御利益のある観音で、のちに隣接する円通寺慈眼堂に移安された。また大覚院の神殿には、16番札所の十一面観音が御神体として祀られている。33観音巡礼、29番札所。



大覚院熊野神社からの景色(ホテルニュグリーン方向)

新小川橋

白鳥橋

⑤ イベント広場



屋外多目的イベント広場で、陸奥湾特産のほたてをモチーフとしたオープン構造となっている。幅15メートル、奥行4メートルのステージもあり、各種集会・イベント等に利用できる。

イベント広場の向かいにはレストランや土産物店のある「むつ下北観光物産館(まさかりプラザ)」、隣には下北の観光・物産などの情報発信施設「むつ来さいい館」がある。

⑥ 円通寺



曹洞宗、山号は吉祥山。大永2年(1522)創建。下総国(千葉県)東昌寺の末寺として東昌寺三世覚翁能正の弟子・宏智聚覚(こうちじゅがく)の開山といわれる。開基の根城南部氏は聚覚のすめに従い、蠣崎の乱を平定した十三代政経追善のため創建したともいわれる。

貞観四年(862)に慈覚大師開山の伝説が残る恐山は、円通寺開山の聚覚によって再興され恐山菩提寺となり、地蔵堂を含む恐山全山が円通寺の所管となった。元禄年間(1688～1704)、恐山はもともと天台宗のものとする田名部蓮花寺との間に、恐山支配をめぐる争いが起こったが、安永9年(1780)、蓮花寺は常念寺にお預けとなり恐山の支配権は円通寺のものとなった。

寛政11年(1799)に十三世千明冠古が、恐山の檜1559本をもらい受け、円通寺本堂と庫裡、山門を再建した。冠古は菅江貞澄(すがえみすみ)と交遊し、よく俳諧を好んだ。なお享保11年(1726)、寺領五十石を受けている。明治四年の斗南藩移封のとき、藩主松平容大(まつだいらおかたはる)の飯館となった。本尊は釈迦牟尼で、本堂わきの慈眼堂に観世音菩薩が安置されている。

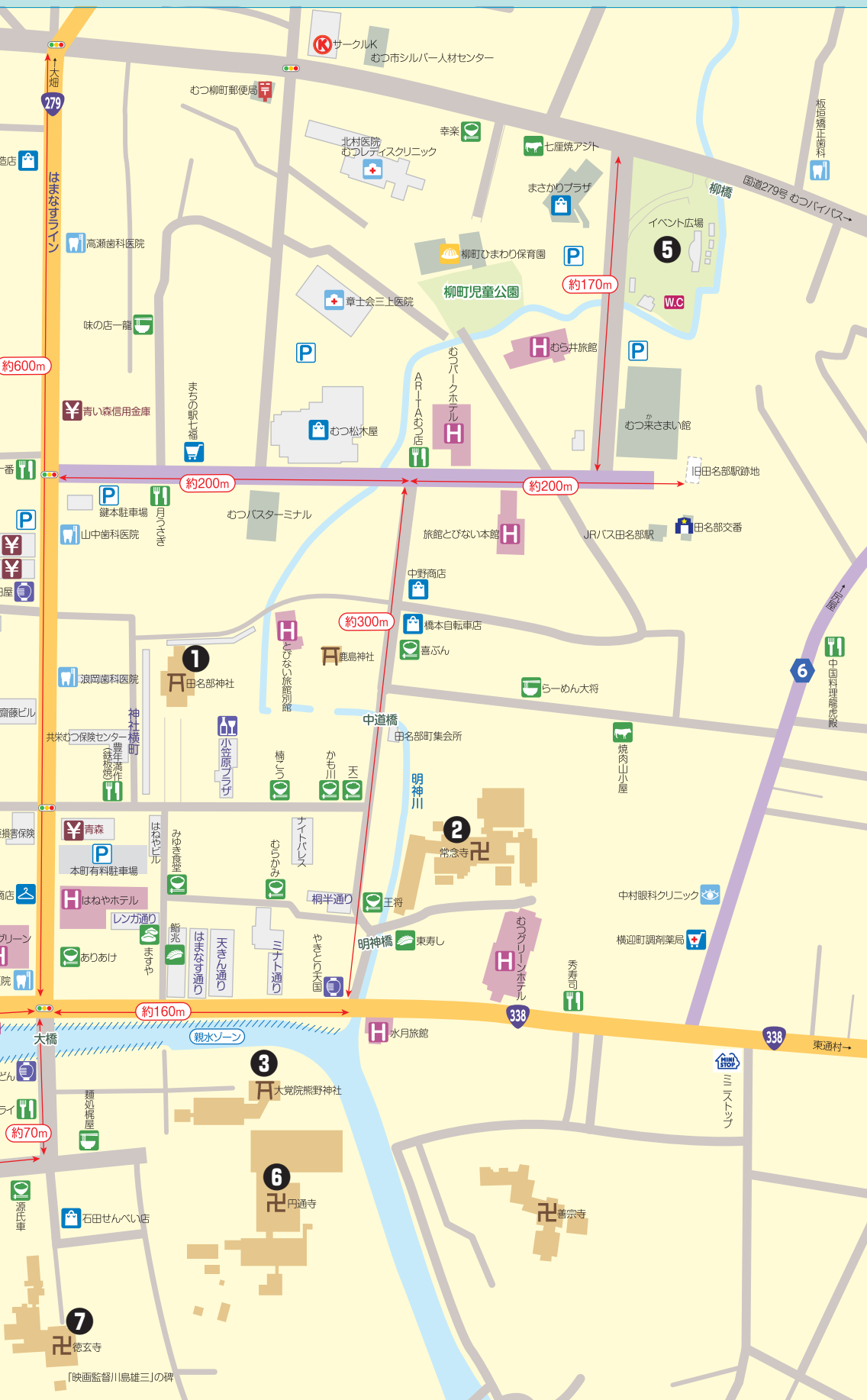
⑦ 徳玄寺



浄土真宗大谷派、本尊は弥陀如来。文禄3年(1594)に加賀の僧保玄が石沢(三戸郡倉石村)に庵を立て、保玄没後、子の専受が寛永2年(1625)に田名部赤平に移して再興したといわれる。その後明暦年間(1655～58)に現在地に移ったとされる。

現在の本堂は安政3年(1856)の建立。境内にはむつ市出身の映画監督川島雄三の碑があり、ほかに、明治の初め、廃寺となった蓮花寺から徳玄寺に移した芭蕉の句碑がある。

斗南藩移封時には斗南開発の館として利用された。



代官橋



大橋



映画監督川島雄三の碑(徳玄寺)



むつ来さいい館



⑧ 大平神明宮

元和元年(1615)氏子の勧請にして鎮座。明治維新前は神明社と称え、氏子・崇敬者に信仰された。明治8年2月28日に神明宮と改号し村社に、明治40年4月19日、神饌幣帛料供進指定神社となる。

祭典後神楽の奉納、船山車が町内を運行する。境内には夜店が並び賑わう。



⑨ 斗南藩士上陸の地

明治3年6月10日、新潟から海路をたどって藩士達が上陸した地のひとつがここ。石碑は平成2年、会津鶴ヶ城の石垣に使用されている慶山石を用い、会津若松市を望む方角に設置された。

碑文の揮ごうは会津松平家第13代当主松平保定氏によるもの。



⑩ 近川稲荷神社 金刀比羅神社

祭神は倉稲魂命と大物主命。明治時代、両者とも廃社となったが、ほどなく元に戻り同じところに祀られた。

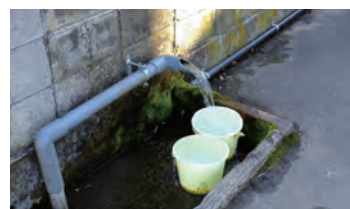
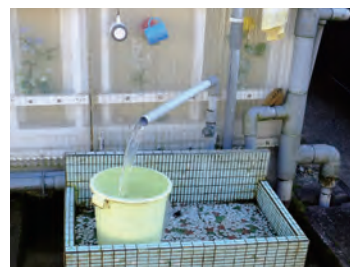
金刀比羅神社には船絵馬が所蔵されている。



大湊湧水群

大湊地区は後ろに釜臥山を控えて豊富な水を蓄えており、海沿いの道にはいたるところに湧水がある。誰でも気軽に飲めるようにコップが用意されて名前もついているところもあるので、坂の散策とあわせて湧水を探しながら歩く人も多い。名前のついている場所は8ヶ所。

- | | |
|---------|------------|
| ① 蕩蕩水 | ③ 三山水 |
| ② 安渡の湧水 | ④ 和(なごみ)の水 |
| ⑤ 龍の湧水 | ⑥ 釜臥の恵み |



釜臥山を間近に仰ぎ見ることができる



